



2024 年 4 月

株式会社 紀伊國屋書店

KinoDen 大学図書館向けに講談社電子書籍をサブスクリプションモデルで販売開始

株式会社紀伊國屋書店(代表取締役社長 藤則 幸男)は、学術電子図書館サービス「KinoDen」(Kinokuniya Digital Library)において、大学図書館向けに講談社の電子書籍をサブスクリプションモデルの形で新たに販売開始を致します。

1. 大学でニーズの高いコンテンツを同時アクセス無制限で提供

この販売モデルの特徴は、大学図書館では現在主流である買切りモデルではなくサブスクリプション(年間購読)モデルでの提供であること、そして KinoDen では初めてとなる「同時アクセス無制限」のライセンス許諾での提供を実現したことです。大学図書館は、講談社が図書館向けに提供する約 8,800 点(2024 年 4 月時点)のタイトルの中から、各図書館の利用者ニーズに基づき自由にタイトルを選書してパッケージの作成ができます。この 8,800 点の中には、講談社ブルーバックス、講談社学術文庫、講談社現代新書、講談社選書メチエといった著名なシリーズに加えて、特に自然科学分野の単行書なども多く含まれます。申し込みは最低 30 タイトルからとなり、パッケージ内のタイトルの入替や追加等は年次の契約更新時に可能となります。年間購読価格は選んだタイトルの内容により図書館毎に異なります。

2. 「早慶和書電子化推進コンソーシアム」プロジェクトを経て一般商品化

この販売モデルの実現のきっかけのひとつは、早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターが協働で始めた「早慶和書電子化推進コンソーシアム」のプロジェクトに KinoDen がパートナーとして選ばれたことです。このプロジェクトでは 2022 年 10 月より出版社 5 社の賛同を得て期間限定のコンテンツ提供を行いました。講談社はそのうちの 1 社であり、年間購読モデルおよび同時アクセス無制限のライセンス許諾を KinoDen で実験的に提供しました。このプロジェクトの趣旨は和書電子書籍の大学図書館で購入できるコンテンツの拡大や利用条件(同時アクセス数など)の改善、新たな購読モデルの構築であり、2024 年 3 月までのプロジェクト期間を通じて得た知見や図書館・出版社・書店の意見交換を通じて、プロジェクトのひとつの成果として KinoDen におけるサブスクリプションモデルの販売開始が実現しました。

3. 大学図書館向けコンテンツの拡大のために

2018 年にサービス開始した KinoDen は、使い勝手の良いプラットフォームと機能において図書館およびその利用者より高い評価を得ております。さらなるプラットフォームの利便性の発展とコンテンツの安定的な増加とともに、図書館・出版社・書店の三者にとってプラスとなるビジネスモデルの構築を目指してまいります。

(KinoDen について)

2018年1月にスタートした図書館向け電子書籍サービスです。国内外の大学図書館、公共図書館、企業、研究機関を中心に500館以上の導入実績があります。読みやすいビューア、アプリ、未購入タイトルも含めた横断全文検索、試し読み・リクエスト機能など、長年の経験を活かし「本当に使われる電子図書館」をご提供します。

(KinoDen ホームページ) <https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/index.html>

リリースに関するお問い合わせ先 : 株式会社 紀伊國屋書店 総務人事部 広報担当
info@kinokuniya.co.jp